

一 漢字の読み書き 解答・解説

問一（二点） 正答 だとう 解説 適切で、よく当てはまること。

問二（二点） 正答 じゅうなん 解説 状況に応じて考え方や対応を変えられる様子。

問三（二点） 正答 けいしょう 解説 前からのものを引き継ぐこと。

問四（二点） 正答 いけい 解説 偉大さをおそれ、敬うこと。

問五（二点） 正答 支援 解説 力を貸して助けること。

問六（二点） 正答 推測 解説 手がかりから、おしはかること。

問七（二点） 正答 確保 解説 確実に保つこと。

問八（二点） 正答 準備 解説 必要なものをあらかじめ整えること。

二 言葉の知識 解答・解説

問九（一点） 正答 読む 解説 「読む」は和語。「読書」は漢語、「リーディング」は外来語。

問十（一点） 正答 客観 解説 特定の個人の見方から離れて捉える立場。

問十一（一点） 正答 イ 解説 構造物を渡す場合に「架ける」を使う。

問十二（一点） 正答 エ 解説 言葉として直接は言い表されていない部分をいう。

三 文法と表現 解答・解説

問十三（二点） 正答 ア 解説 弟に本を読む行為をさせるので、使役。

問十四（二点） 正答 未然形 解説 打ち消しの「ない」に続く形。「帰る」はラ行五段活用。

問十五（二点） 正答 仮定形 解説 形容動詞「静かだ」の「なら」は仮定形。

問十六（二点） 正答 私の目標は、毎日欠かさず日記を書くことです。 解説 主語「目標は」に対応する述語を名詞相当の形にする。 採点 「書くことです」に直す二点。元の意味を変えた場合は〇点。

問十七（二点） 正答 ウ 解説 自分の行為を低め、先生を立てる「伺う」を用いる。

問十八（二点） 正答 届いた 解説 「昨日」は届いた時を詳しくする。このまとまりの中では「開けた」にはかからない。

四 小説を読む 解答・解説

問十九（二点） 正答 エ 解説 自分たちが受け継いだリズムを、同じ形で次へ渡そうとしていた。

問二十（二点） 正答 ア 解説 奏本人の内面を直接述べず、奈緒が表情をどう捉えたかを示す。

問二十一（三点） 解答例（三十六字） 奈緒が自分の考えを先に押し出し、後を歩く奏の事情に目を向けていない状況。 解説 実際の歩く位置と、相手を理解せず先走る姿が重ねられている。 採点 奈緒が先を歩く・自分の考えを押し出す一点、奏の事情に注意を向けない二点。

問二十二（三点） 正答 イ 解説 ただ遅れるのではなく、歩く子どもに合わせて間を調整していた可能性が見える。

問二十三（三点） 解答例（三十七字） 楽譜どおりに直す前に、奏がどんな考えで演奏しているのかを聞こうとしたから。 解説 ⑥の問いかけへつながる行動。正解を一方的に教える姿勢からの変化。 別解・許容 行列の様子に合わせて演奏するには、楽譜だけでは音の間を決められないと気づいたから。（四十一字） 採点 自分の考えだけで直すことを見直した一点、行列の様子や奏の意図を踏まえる必要に気づいた二点。

問二十四（四点） 解答例（五十二字） 曲の形を保ちながらも、奏たちが行列に合わせて表現を工夫することで、新しい演奏の可能性が生まれていたこと。 解説 楽曲自体が別の曲になったのではない。受け継いだものの中に新しい表現を見いだす比喩。

採点 同じ曲を受け継ぐこと一点、奏たちが相手や場に合わせて工夫すること二点、新たな表現の可能性一点。

問二十五（五点） 解答例（五十七字） 否定したとはいえない。去年の録音を残し、奏の後ろを歩くことで、過去の演奏を大切にしつつ奏の新しい工夫も認めている。 解説 過去の演奏を保つ行動と、奏の工夫を理解しようとする行動を根拠にする。奏へ判断を尋ねる行動なども使える。 別解・許容 否定したとはいえない。去年の録音を残したうえで、奏に音を出す判断を尋ねており、過去と新しい工夫の両方を大切にしている。（五十九字） 採点 否定とはいえないという立場一点、録音を残す根拠一点、奏に判断を尋ねる・一緒に行列を確かめる・奏の後ろを歩く等の根拠一点、新旧両方を尊重する解釈二点。

五 説明文・論説文を読む 解答・解説

問二十六（二点） 正答 順位 解説 複数の対象を一目で比べる順位を指す。

問二十七（二点） 正答 ウ 解説 観点の選択と重み付けが、順位を導く前提になる。

問二十八（三点） 解答例（三十九字） 重視する観点を変えると、同じ二つの町でも評価の順序が変わり得ることを示すため。

解説 数字の計算方法ではなく、評価基準と結論の関係を具体化している。 採点 観点を変えること一点、同じ対象でも評価が変わること二点。

問二十九（三点） 正答 ア 解説 数字の限界を示しつつ、条件をそろえ比較する価値は認めている。

問三十（二点） 正答 エ 解説 目的に合うか確かめ、必要なら別の資料と組み合わせるという結論。

問三十一（四点） 解答例（四十八字） 順位をそのまま結論にせず、基準や条件を調べ、自分に必要な観点を加えて考え始めるためのものだから。 解説 便利な要約から、要約の外側へ調べる行動が続くことを捉える。 採点 順位を最終結論にしない一点、基準・条件を調べる一点、自分の目的に応じて補い考える二点。

問三十二（五点） 解答例（五十七字） 同じ町の資料を使い、交通と静かさの重みを変えて順位を比べる。評価の観点の重みが結果を左右するかを確かめられるから。 解説 解答例は、観点の重みが順位に関わるという主張を確かめる調査。目的による評価の違いなど、本文の他の主張を検証する適切な調査も認める。 別解・許容 同じ二つの道具を、用途の異なる人に評価してもらう。目的によって重視する点や評価順が変わるかを調べられるから。（五十四字） 採点 具体的な調査二点、比べる対象や条件の適切さ一点、本文の主張との論理的なつながり二点。

六 古典 解答・解説

問三十三（二点） 正答 風の音 解説 目で見える様子ではなく、聞こえる音によって気づいている。

問三十四（二点） 正答 イ 解説 現代語の「びっくりする」だけでなく、秋の訪れにはっと気づく意。

問三十五（二点） 正答 夏草 解説 季節は夏。「夢」はこの句の季語ではない。

問三十六（三点） 正答 武士たちが手柄や栄光を求めて戦い、それが消え去った跡。 解説 単に眠って見た夢の場所ではない。功名が今は草むらになったという前後関係で読む。 採点 武士の手柄・栄光への望み一点、戦った場所・跡一点、今は失われたこと一点。

問三十七（三点） 解答例（四十三字） かつての武士の栄光も今は失われ、自然だけが残ることに、人の営みのはかなさを感じている。 解説 武士の功名と現在の草むらを対比し、涙を流す心情を捉える。 採点 過去の栄光と今の草むらの対比一点、人の栄光・営みのはかなさ二点。

問三十八（四点） 解答例（五十二字） Aでは風の音が秋への気づきを生み、Bでは夏草の景色が昔の武士への思いを誘う点で、自然が心を動かしている。 解説 Aは季節への気づき、Bは歴史への思い。異なる心の動きを区別したうえで共通点をまとめる。 採点 Aの風の音と秋への気づき一点、Bの夏草と過去への思い一点、自然と心の関係を共通点として示す二点。

七 資料を用いて書く 解答・解説

問三十九（二点） 正答 ア 解説 全員への到達と更新の速さでは、異なる方法がよい結果になっている。

問四十（六点） 解答例（七十九字） 更新に一分しかかからない電子連絡でまず知らせ、紙でも掲示する。電子連絡の確認者は三十人中二十四人で全員ではないため、未確認者には直接伝え、届いたかを確かめる。 解説 紙だけ・電子だけ・併用のいずれでも、全員への到達を確認する手順があればよい。試行結果は今回の到達を保証しない。 採点 方法が明確一点、資料一の人数を正確に使う一点、資料二の時間を正確に使う一点、弱点を補う具体策二点、全員に届くか確認する視点一点。

採点の共通規則と出典

記述は解答例です。本文・資料に合い、指定条件を満たす同内容の答えは正解とします。書き取りは漢字、読みはひらがなで採点します。

記述の内容点は各問の基準で加算します。字数不足・超過は内容点から1点減点（0点未満にしない）。誤字・脱字や不自然な文末は、意味を妨げる場合に限り1問につき1点減点。複数の形式違反があっても、形式による減点は合計1点までです。

現代文、設問、現代語の説明、表のデータは本教材のために作成しました。古典は著作権保護期間の満了した原文を抜粋し、表記を学習用に整えています。架空の調査を実際の統計として用いないでください。

文部科学省「中学校学習指導要領解説 国語編」と、光村図書「令和7年度版 年間指導計画例」で学年の学習内容を確認しました。各校の定期試験問題・出題頻度を収集したものではありません。学校の試験範囲に合わせて使ってください。

確認日：2026年10月。全問の内容・解答・字数・図表・表示をAIによる独立確認で点検しました。教員や生徒による実地検証は行っていません。

範囲の参照先

文部科学省 www.mext.go.jp

光村図書 www.mitsumura-tosho.co.jp/kyokasho/c-kokugo/keikaku

古典本文の照合先

藤原敏行『古今和歌集』／同志社女子大学「もう立秋です」

www.dwc.doshisha.ac.jp/research/faculty_column/2015-08-19-16-03

松尾芭蕉『おくのほそ道』平泉／岩手県立図書館「世界の平泉へ」

www.library.pref.iwate.jp/ex/hiraizumi/alacarte02.html